

5章 質問紙調査結果の分析

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

1. はじめに

本章では、生徒・学校・教員に対して実施された質問紙調査のうち、公立学校の調査データを中心に、特徴のある項目について分析を行った。なお、生徒データに関しては、各技能とも対象者の95%以上がCEFRのA1レベル（A1上位、A1下位）に集中しているため、レベル別の分析はあくまでも参考程度という前提で行われている。

今年度は、平成27年度に続いて2年目の中学校3年生を対象とした調査である。特に下記の観点での分析を行う。

- 平成27年度に課題として挙げられた点が、平成28年度にどのように変化しているかを確認し考察する。
- 生徒の英語学習に対する意識については、英語の学習が好きではない理由についての質問項目を追加することにより、意識の背景にあることについて考察する。
- 今年度調査より、小学校外国語活動に関する質問項目を新たに加えている。小学校外国語活動に対する意識と中学校3年生における英語力の関係性について考察する。

2. 主な特徴

2.1 生徒質問紙調査から

<生徒の英語学習に関する意識>

(1) 英語の学習が好きではないと回答する生徒が約半数。

平成27年度に「英語の学習が好きである」と回答している生徒は約半数であった。平成28年度も同様の回答をしている生徒は約半数である。「英語の学習が好きではない」と回答している生徒は昨年度より2.2ポイント増加している。英語の学習が好きではない理由は、回答数が多い順に「英語そのものが嫌い」(33.7%)、「英語のテストで思うような点が取れない」(16.3%)、「文法が難しい」(13.8%)となっている。

(2) 英語使用のイメージとして「高校入試に対応できる力を付けたい」が多い。

平成27年度は、将来の英語使用のイメージとして「高校入試に対応できる力を付けたい」と回答する生徒が多かった。平成28年度も依然として、同回答の生徒が38.1%と全体の中で最も多くなっており、かつ昨年度よりも2.7ポイント増加している。

<生徒の英語使用などに関する経験 / 英語の学習方法・内容・時間>

(3) 英語を使った各種活動を体験している生徒が非常に少ない。

平成 27 年度は、英語を使った各種活動を経験している生徒が非常に少なかった。平成 28 年度もこの傾向は変わらず、No.4（英語使用などに関する経験）「中学生になってから経験したことは何ですか」の問いに対して「当てはまるものはない」との回答が 90.4%となっている。

(4) 自主的な英語学習時間が少ない。

平成 27 年度は生徒の自主的な英語学習時間が少なく、No.8「1 日当たりどれくらい英語に接していますか」の質問に対して、42.6%が 30 分以下と回答していた。同様の傾向は平成 28 年度も継続して見られ、30 分以下と回答する生徒は全体の 44.0%であった。

(5) 4 技能を通じた言語活動を行っている と回答した生徒の割合は増加。

平成 27 年度は、英語で概要や要点をとらえる活動や、聞いたり読んだりした内容をもとに英語で話し合ったり書いたりするなどの技能を統合した活動を、ある程度経験していると生徒は回答していた。同様の傾向は平成 28 年度も継続しており、4 技能を通じた言語活動に対する生徒の意識ではそのような活動を行っている と割合はいずれも増加している。

＜生徒の英語に関する資格・検定試験の受験経験＞

(6) 資格・検定試験を受験する生徒は依然として少ない。

平成 27 年度は、中学生になってから資格・検定試験を受験した経験を持つ生徒は少なかった。平成 28 年度も同様の傾向が見られ、61.0%の生徒が「英語に関する資格・検定試験を受験したことがない」と回答している。受験したことがない理由については、「自分の英語力に自信がない」が 48.9%と前年度同様最も多い回答となっている。

2.2 学校質問紙調査・教員質問紙調査から

＜学校の目標設定＞

(1) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定する学校が増加。

平成 27 年度は、外国語科教員の間で指導目標やその達成に向けた方策は共有されており、言語活動に重点を置いた指導計画が作成されていた。しかし、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定している学校は 33.4%と少なかった。平成 28 年度調査では、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を設定している学校は 45.7%と増加しており、前年度と比較して目標設定が進んでいる様子が確認できる。

<授業内・授業以外の取組>

(2) 技能統合を意識した言語活動への取組は前年度並み。

平成 27 年度は、英語で概要や要点をとらえる活動はある程度実施しているが、技能の統合を意識した言語活動への取組に関しては改善の余地があった。平成 28 年度の結果を見ると、聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換・書く活動において 2 ポイント以上増加している。

(3) 授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組は依然少ない。

平成 27 年度は授業以外での国際交流やコミュニケーション能力育成のための取組が少なかった。平成 28 年度と同質問「現在第 3 学年の生徒に対して、入学してからこれまで、授業以外で国際交流や外国語のコミュニケーション能力育成のための取組を実施しましたか。」においても、肯定的な回答は 39.5%と依然として半数を下回る値となっている。

<英語に関する研修の実施状況 / 資格・検定試験の受験経験>

(4) 教員の外部研修の機会は十分に確保されている。

平成 27 年度は「実践的な研修」は多くの学校で行われていた。また、教員が他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる状況にあった。平成 28 年度も同項目「英語教育に関して、教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。」に対して、肯定的な回答は 90.3%と高い値になっている。

(5) 教員の英語力が目標値に到達していない割合は 6 割以上。

平成 27 年度は、教員になってから英語に関する資格・検定試験を受験し、かつ英検準 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC730 点以上のいずれかを取得している教員は少なかった。平成 28 年度も、「取得していない」と回答した割合は 65.0%であり、前年度の 65.2%とほぼ同じ割合となっている。

2.3 小学校外国語活動について

◆生徒◆

- (1) 「小学校の時、英語が好きだと思っていた」との回答が、**54.7%**。
- (2) 「小学校の時、英語の授業が好きだと思っていた」との回答が、**57.0%**。
- (3) 「小学校の時、特に学校の授業以外で英語の利用を考えていなかった」を選択した生徒の割合が他の選択肢と比較して**44.2%**と最も高かった。
- (4) 「小学校の時、英語の授業の中で楽しいと思ったことは外国のことについて学ぶこと」を選択した生徒の割合が他の選択肢と比較して**20.7%**と最も高かった。
- (5) 「小学校の英語の授業で学んだことの中で中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか」という問いに対して「アルファベットを読むこと」が**20.8%**と最も高かった。
- (6) 「あなたが学校で英語の学習を開始した時期はいつですか」という問いに対して「小学校5年生」と回答した生徒の割合が**31.9%**と最も高い。

◆教員◆

- (1) 外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について、英語の音声に慣れ親しんでいると回答した教員は、**73.8%**。
- (2) 小学校で外国語活動が行われたことで小中連携に関する取組が一層促進されたと回答した教員は、**52.6%**。

3. それぞれの分析

3.1 生徒質問紙調査から

2. 英語学習に対する生徒の意識

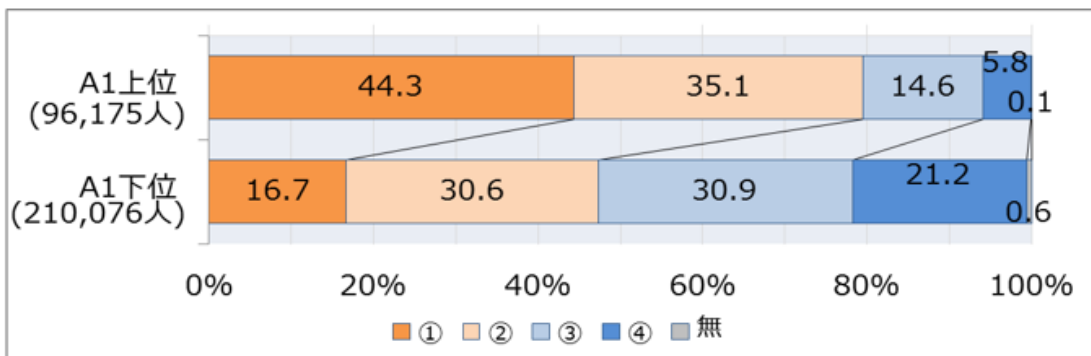
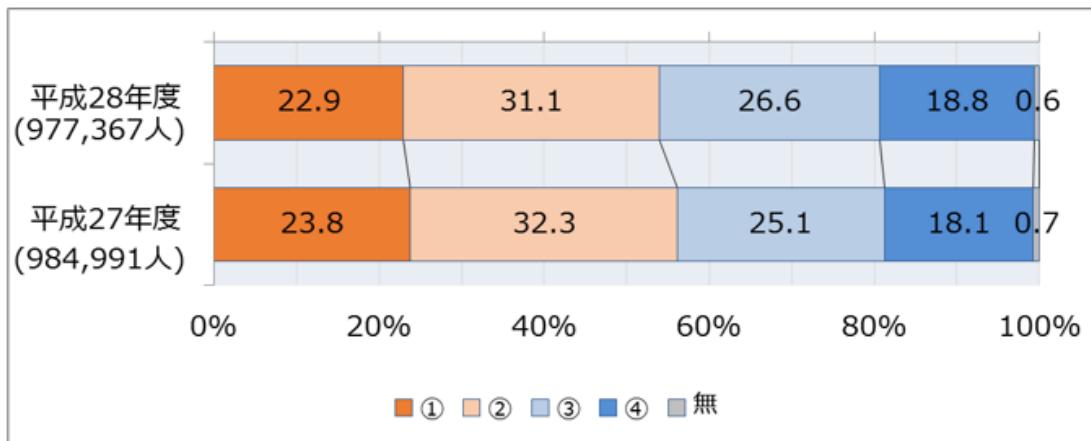
<テスト結果と質問紙の分析>

○「英語の学習は好きですか」

- ・英語の学習が好きではない(選択肢③④)との回答が 45.4% (対前年 2.2 ポイント増加)。
- ・「話すこと」のテストスコアが高い方が、「英語の学習が好きである」生徒の割合が高い。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



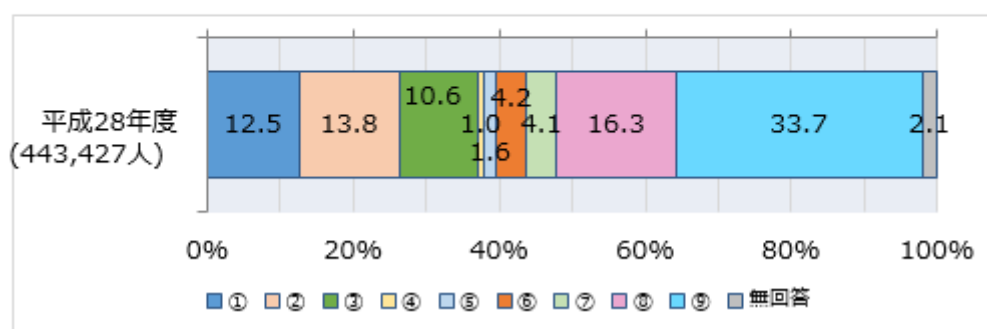
※「話すこと」のテスト結果とのクロス

○ 「（1で③～④と回答した方のみ）その理由はなぜですか。」

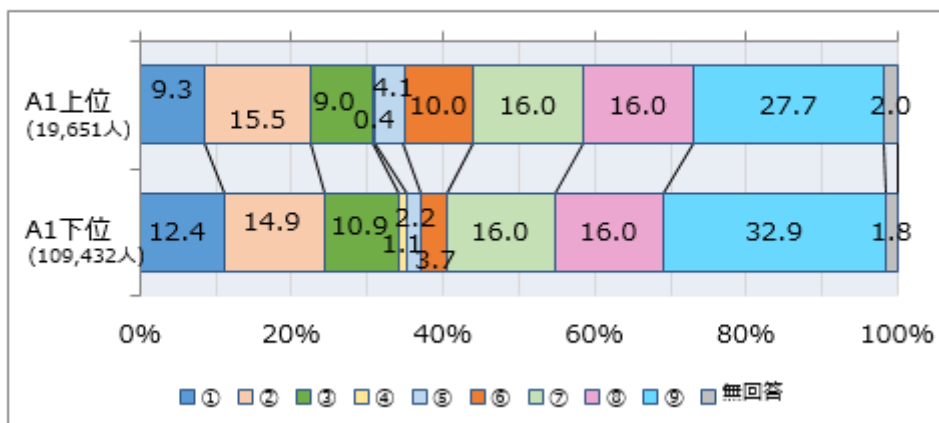
- ・英語の学習が好きではない理由は、回答数が多い順に「英語そのものが嫌い」（33.7%）、
「英語のテストで思うような点が取れない」（16.3%）、「文法が難しい」（13.8%）。
- ・「話すこと」のテストスコアが低い生徒は、高い生徒と比較して「英語を話すのが難しい」
（2.2%）、「英語を聞き取るのが難しい」（3.7%）と「聞くこと」「話すこと」を困難に
感じる割合が低い。

No.2（1で②～④と回答した方のみ）その理由はなぜですか。当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①単語のつづりや文字を覚えるのが難しい ②文法が難しい ③英語の文を書くのが難しい
④英語の文を声に出して読むのが難しい ⑤英語を話すのが難しい ⑥英語を聞き取るのが難しい
⑦英語を読み取るのが難しい ⑧英語のテストで思うような点数がとれない ⑨英語そのものが嫌い



■ 「話すこと」のテスト結果とのクロス

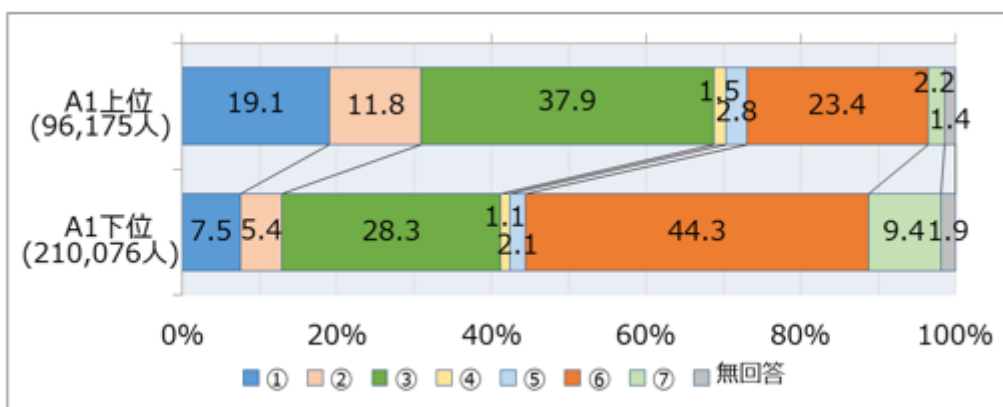
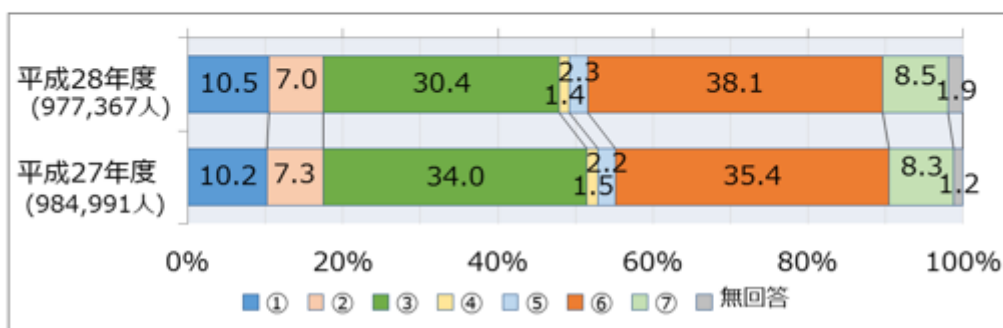


○「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」

- ・現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。
- ・「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高い方が、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」、「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」といった将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い。

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
 ③海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
 ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
 ⑥高校入試に対応できる力を付けたい
 ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス

3. 4技能の言語活動に対する生徒の意識

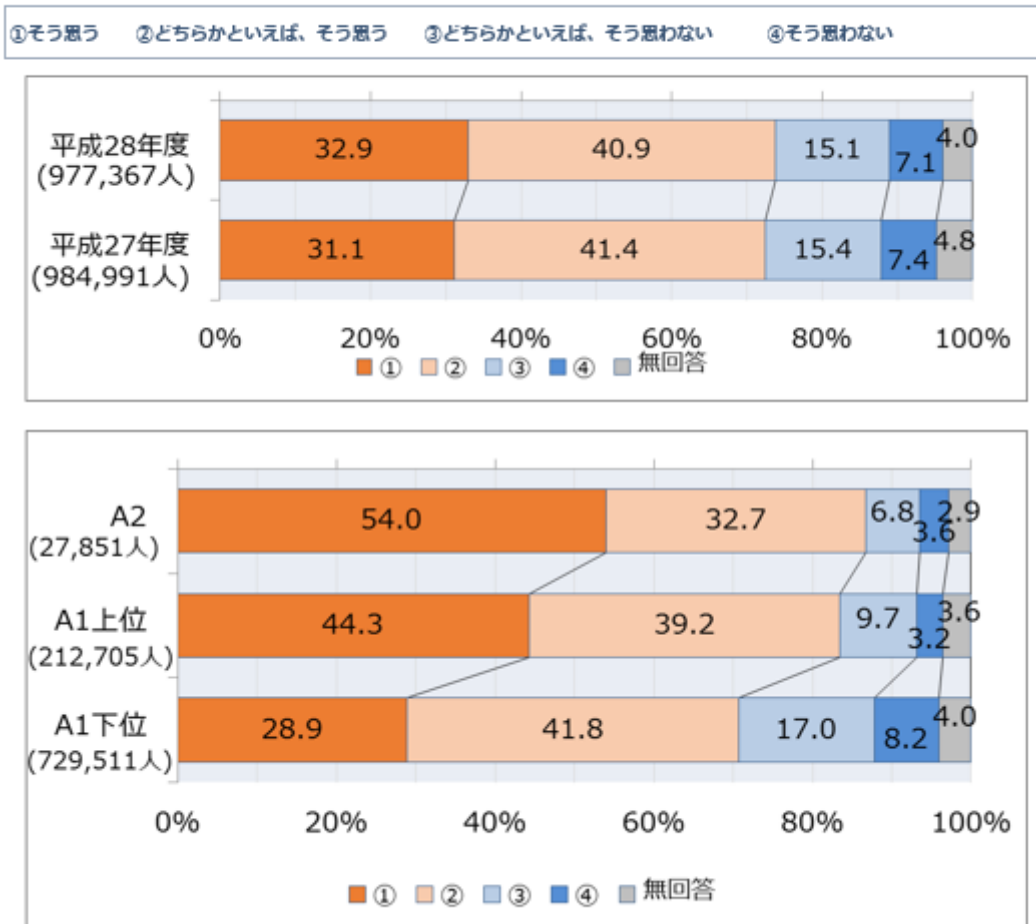
<テスト結果と質問紙の分析>

◆聞くこと◆

○「英語を聞いて、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」

- ・英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていたと答えた生徒は、73.8% (対前年1.3ポイント増加)。
- ・「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思えますか。



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

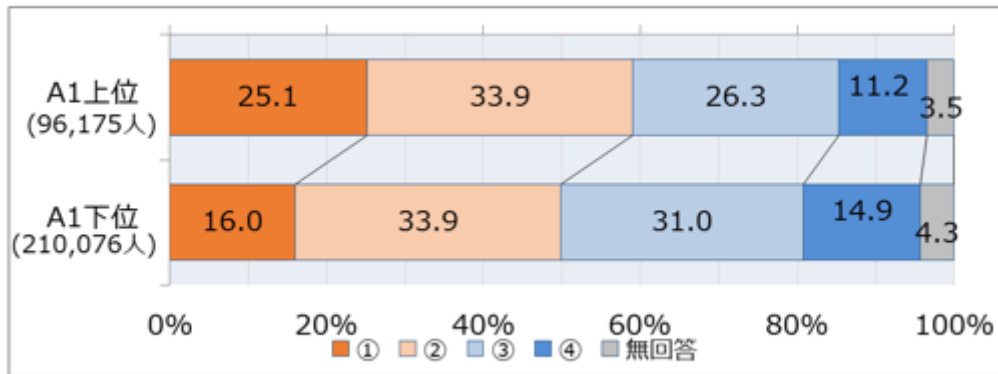
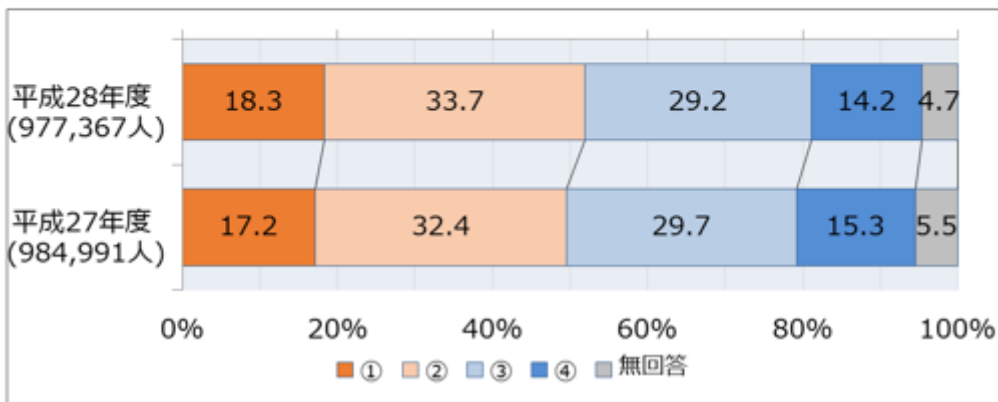
◆話すこと◆

○「与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか。」

- ・与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと答えた生徒は、52.0% (対前年2.4ポイント増加)。
- ・「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



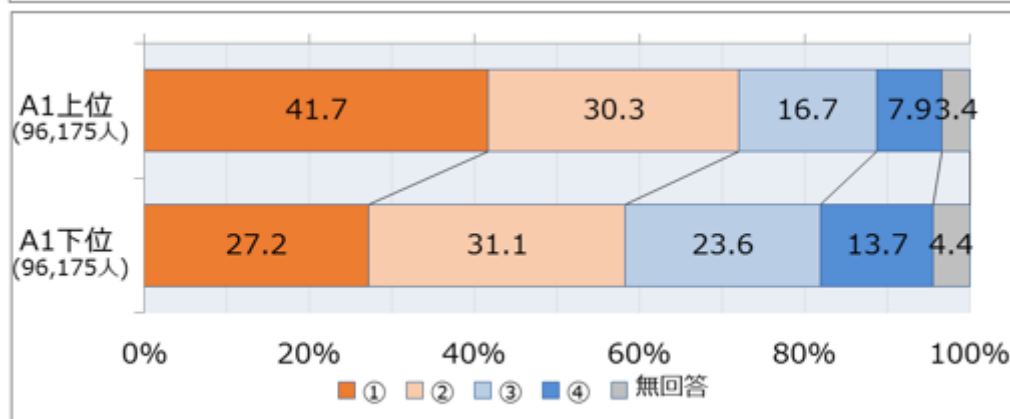
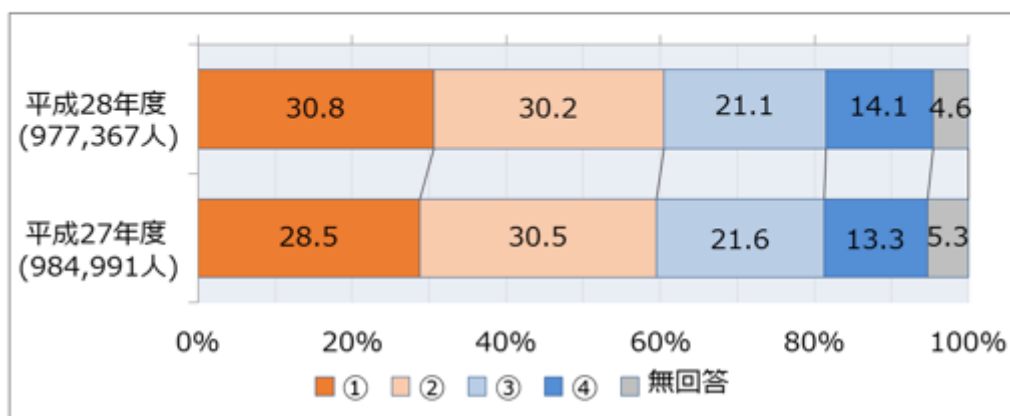
※「話すこと」のテスト結果とのクロス

○「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。」

- ・英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていたと答えた生徒は、61.0%（対前年 2.0 ポイント増加）。
- ・「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



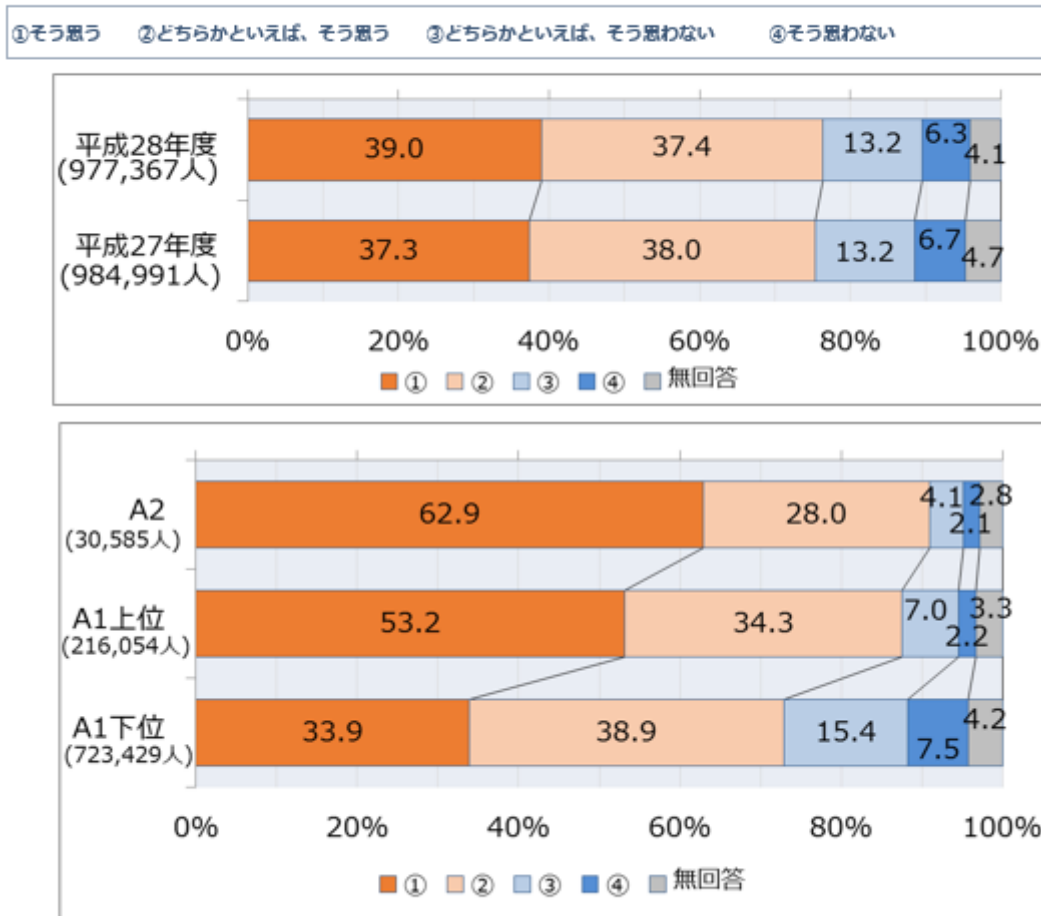
※「話すこと」のテスト結果とのクロス

◆読むこと◆

○「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」

- ・英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていたと答えた生徒は、76.4% (対前年1.1ポイント増加)。
- ・「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていたと思えますか。



※「読むこと」のテスト結果とのクロス

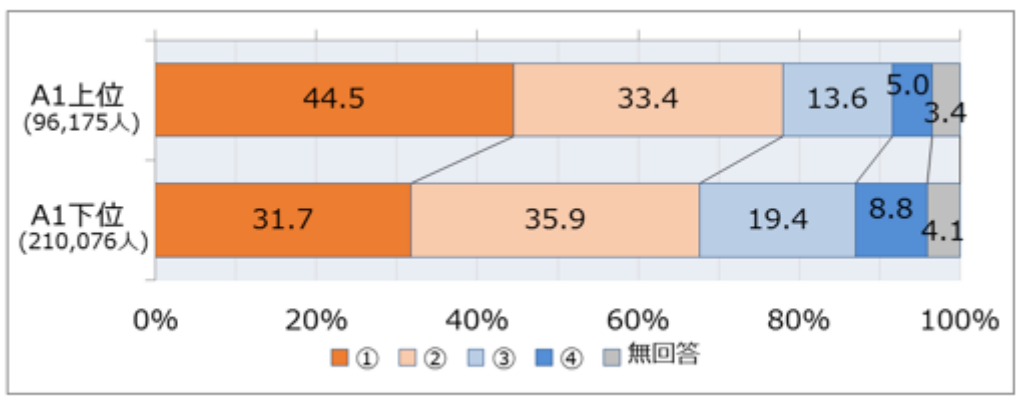
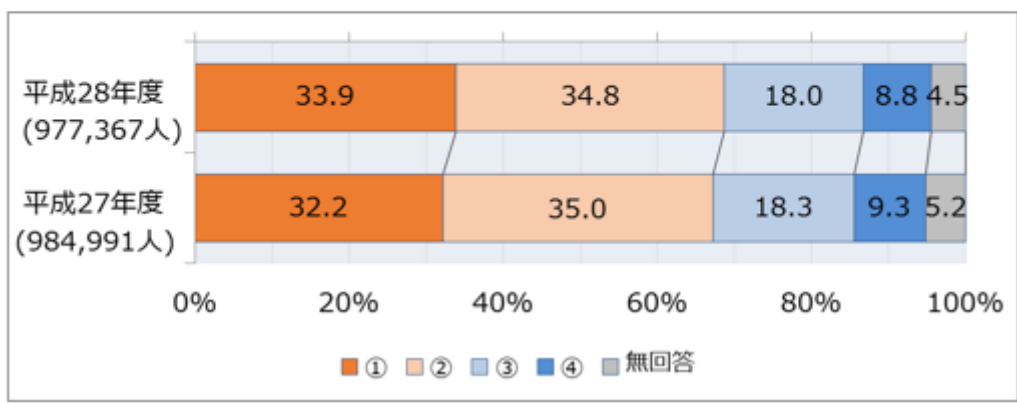
◆技能統合型◆

○「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。」

- ・聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていたと答えた生徒は、68.7%（対前年1.5ポイント増加）。
- ・「話すこと」のテストスコアが高いほうが、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



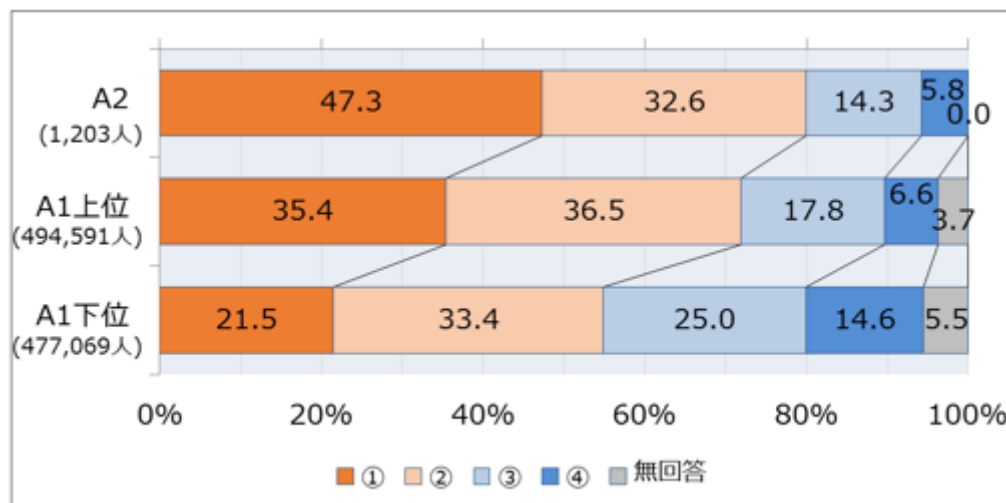
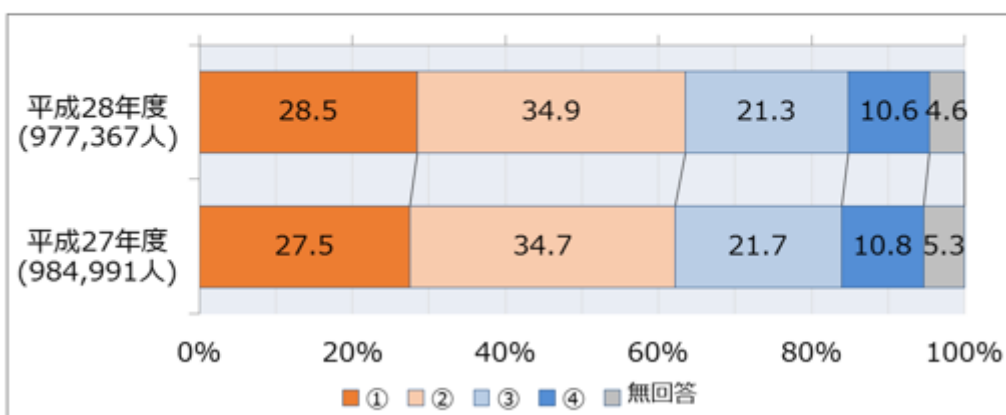
※「話すこと」のテスト結果とのクロス

○「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。」

- ・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしていたと答えた生徒は、63.4%（対前年1.2ポイント増加）。
- ・「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「書くこと」のテスト結果とのクロス

3.2 学校質問紙調査・教員質問紙調査から

4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

<質問紙の分析>

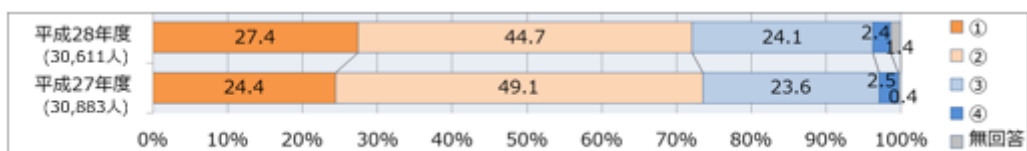
◆聞くこと◆

○「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。」

- ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている教員は、72.1%（対前年1.4ポイント減少）。

問 まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



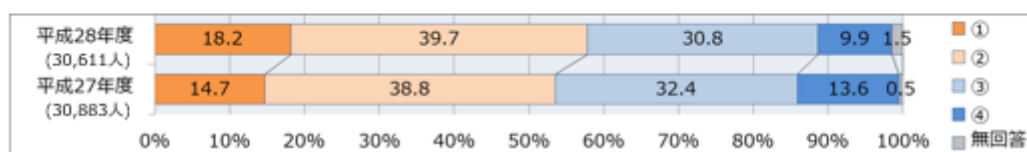
◆話すこと◆

○「与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。」

- ・スピーチをする活動を行っている教員は、57.9%（対前年4.4ポイント増加）。

問 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



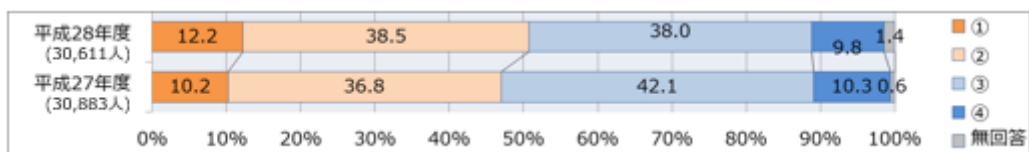
◆読むこと◆

○「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。」

- ・伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている教員は、50.7%（対前年 3.7 ポイント増加）。

問 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



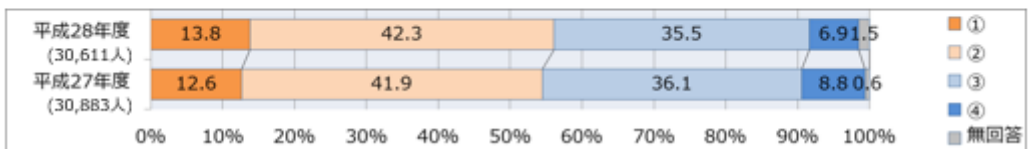
◆書くこと◆

○「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。」

- ・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動を行っている教員は、56.1%（対前年 1.6 ポイント増加）。

問 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

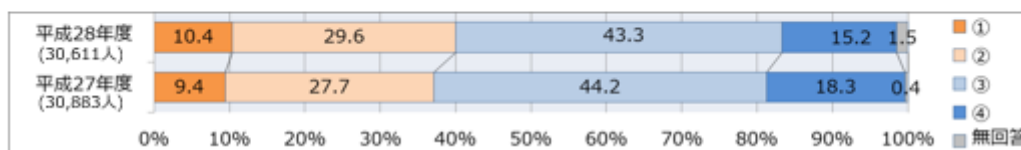


◆技能統合型◆

○「聞いたり読んだりしたことなどについて問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか」

問 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

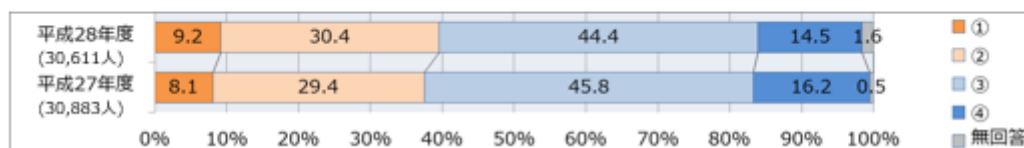


○「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。」

- ・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員は、40.0%（対前年 2.9 ポイント増加）、書く活動を行っている教員は、39.6%（対前年 2.1 ポイント増加）。

問 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

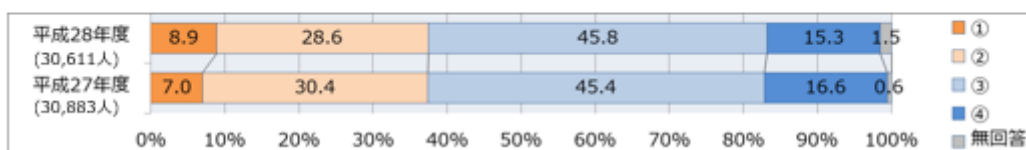


○「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなど
 することができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか」

- ・英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている教員が、37.5%（対前年 0.1 ポイント増加）。

問 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



5. 生徒の英語力に関する学習到達目標の設定状況

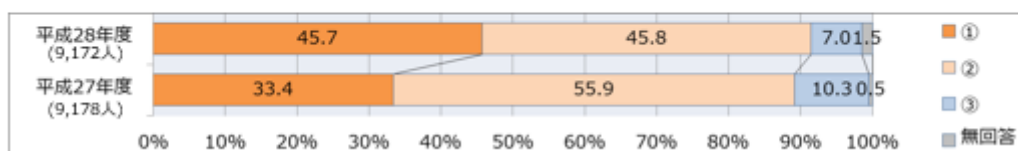
<質問紙の分析>

○「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。」

- ・「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定している」と回答した学校は、45.7%（対前年 12.3 ポイント増加）。

問 生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。

①設定している ②今は設定していないが、今後設定する予定である ③設定しておらず、今後も設定する予定がない



3.3 外国語活動指導の実態

6. 外国語活動指導の実態

<質問紙の分析>

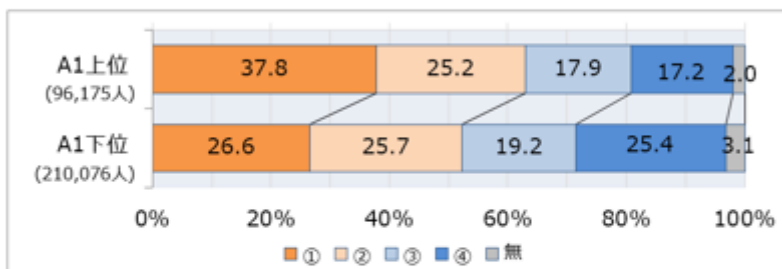
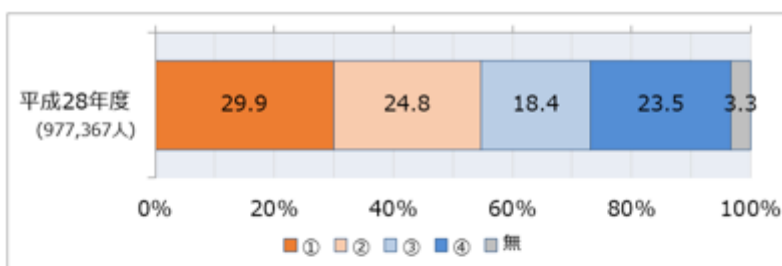
◆生徒◆

○「小学校の時、あなたは、英語が好きでしたか。」

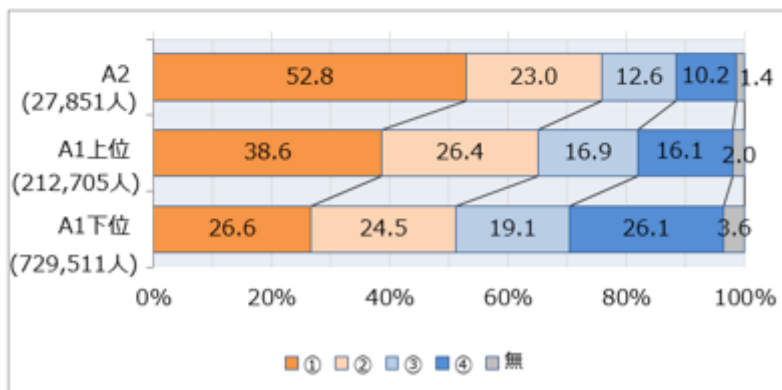
- ・肯定的な回答（選択肢①②）が、54.7%。
- ・「話すこと」「聞くこと」のCEFR レベルとのクロス集計を確認すると、「話すこと」「聞くこと」の力が高いほど、「そう思っていた」（選択肢①）と回答する割合が高い。なお、同様の傾向は「読むこと」「書くこと」でも見られた。

問 小学校の時、あなたは、英語が好きでしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ① そう思っていた
 ② どちらかといえば、そう思っていた
 ③ どちらかといえば、そう思っていなかった
 ④ そう思っていなかった



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



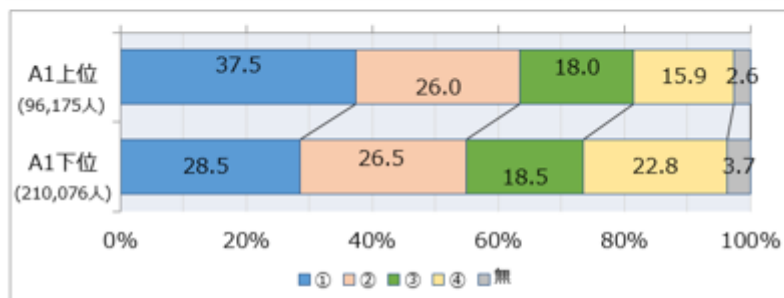
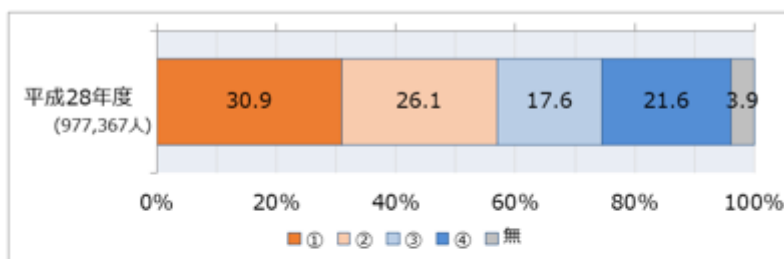
※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

○「小学校の時、英語の授業は好きでしたか。」

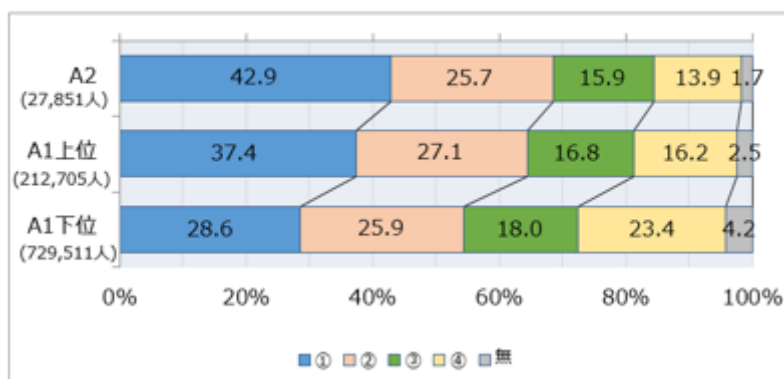
- ・肯定的な回答（選択肢①②）が、57.0%。
- ・「話すこと」「聞くこと」のCEFR レベルとのクロス集計を確認すると、「話すこと」「聞くこと」の力が高いほど、「そう思っていた」（選択肢①）と回答する割合が高い。なお、同様の傾向は「読むこと」「書くこと」でも見られた。

問 小学校の時、英語の授業は好きでしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①そう思っていた
 ②どちらかといえば、そう思っていた
 ③どちらかといえば、そう思っていなかった
 ④そう思っていなかった



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



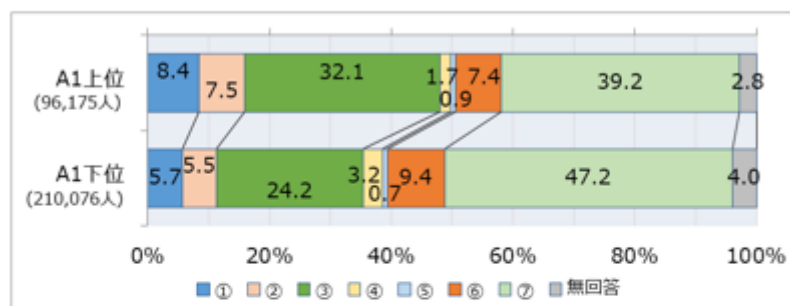
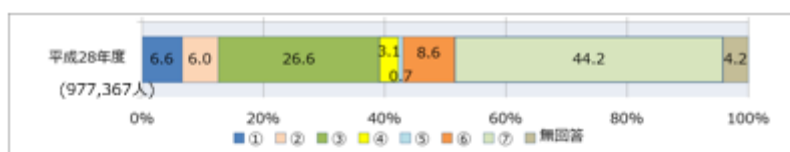
※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

○「小学校の時、英語を使ってみたいことは何でしたか。」

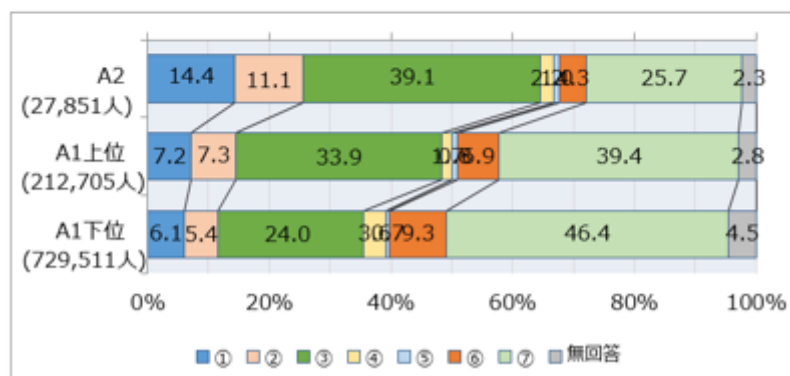
- ・「特に学校の授業以外での利用を考えていなかった」（選択肢⑦）を選択した生徒の割合が 44.2%と最も高かった。次いで、「海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった」（選択肢③）を選択した生徒の割合が 26.6%と高かった。
- ・「話すこと」「聞くこと」の CEFR レベルとのクロス集計を確認すると、「話すこと」「聞くこと」の力が高いほど、「海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった」（選択肢③）と回答する割合が高い。一方で、「特に学校の授業以外での利用を考えていなかった」（選択肢⑦）の割合が減少する。

問 小学校の時、英語を使ってみたいことは何でしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたかった
 ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたかった
 ③海外旅行などをするとときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった
 ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたかった
 ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたかった
 ⑥高校入試に対応できる力をつけたかった
 ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていなかった



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



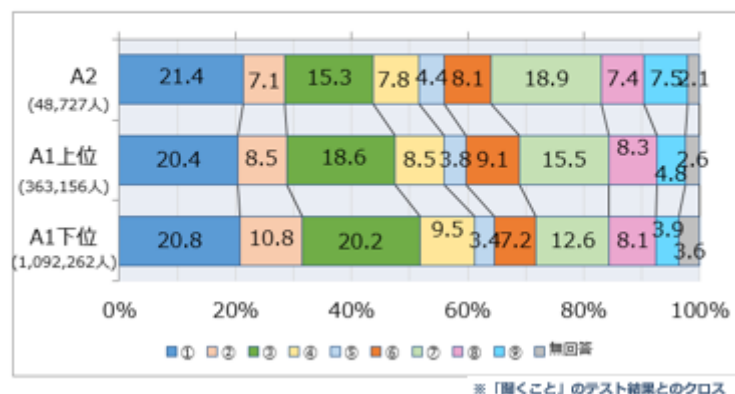
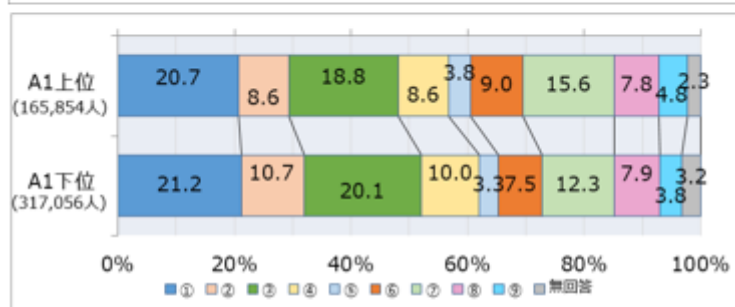
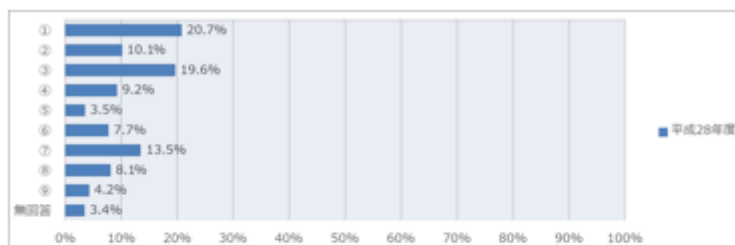
※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

○「小学校の時、英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことでしたか。」

- ・「外国のことについて学ぶこと」（選択肢①）が 20.7%、「英語で友達と会話すること」（選択肢③）が 19.6%、「英語で外国人の先生と会話すること」（選択肢⑦）が 13.5%と、順に回答数が多くなっている。
- ・「話すこと」「聞くこと」の CEFR レベルとのクロス集計を確認すると、「話すこと」「聞くこと」の力が高いほど、同じ技能でより下位の力の生徒と比較して「英語で外国人の先生と会話すること」（選択肢⑦）と回答する割合が高くなる。

問 小学校の時、英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことでしたか。（3つまで選択可能）

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ①外国のことについて学ぶこと | ②日本語と英語の違いを知ること |
| ③英語で友達と会話すること | ④英語の発音を練習すること |
| ⑤英語で友達や先生などの人の意見を聞くこと | ⑥英語の文字や単語を読むこと |
| ⑦英語で外国人の先生と会話すること | ⑧英語の文字や単語を書くこと |
| ⑨英語で自分のことや意見をいうこと | |

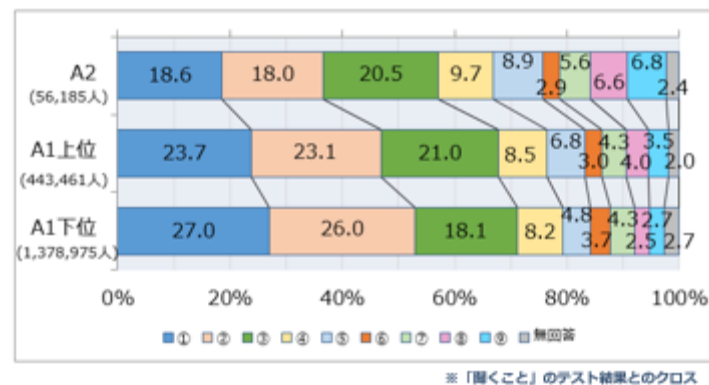
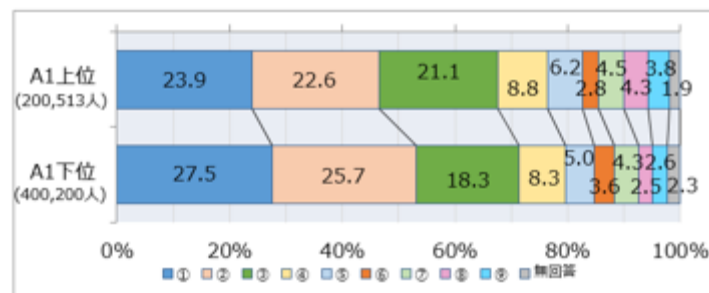
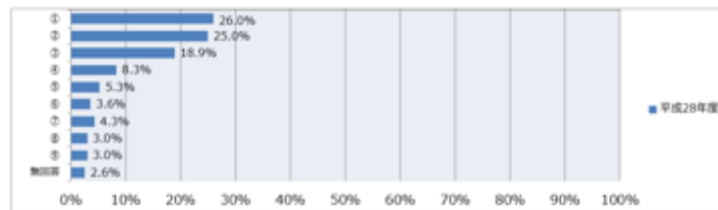


○「小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。」

- ・「アルファベットを読むこと」(選択肢①)が20.8%、「英語で簡単な会話をすること」(選択肢③)が19.6%、「外国のことについて学ぶこと」(選択肢⑦)が13.5%と、順に回答数が多くなっている。
- ・「話すこと」のテスト結果とのクロスを確認すると、A1下位の生徒の方が「アルファベットを読むこと」(選択肢①)27.5%、「アルファベットを書くこと」(選択肢②)25.7%のように、役に立ったと感じている。一方で、「英語で簡単な会話をすること」(選択肢③)21.1%、「友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと」(選択肢⑤)6.2%のように、「聞くこと」「話すこと」に関しては上位になるほど役に立ったと感じている傾向がみられる。

問 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。(3つまで選択可能)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ①アルファベットを読むこと | ②アルファベットを書くこと |
| ③英語で簡単な会話をすること | ④英語の発音を練習すること |
| ⑤友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと | ⑥日本語と英語の違いを知ること |
| ⑦外国のことについて学ぶこと | ⑧英語で自分のことや意見を言うこと |
| ⑨みんなの前で英語で発表すること | |



○「あなたが学校で英語の学習を開始した時期はいつですか。」

・「小学校5年生」と回答した生徒の割合が31.9%と最も高い。

問 あなたが学校で英語の学習を開始した時期はいつですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。

①小学校入学前 ②小学校1年生 ③小学校2年生 ④小学校3年生 ⑤小学校4年生 ⑥小学校5年生 ⑦小学校6年生



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



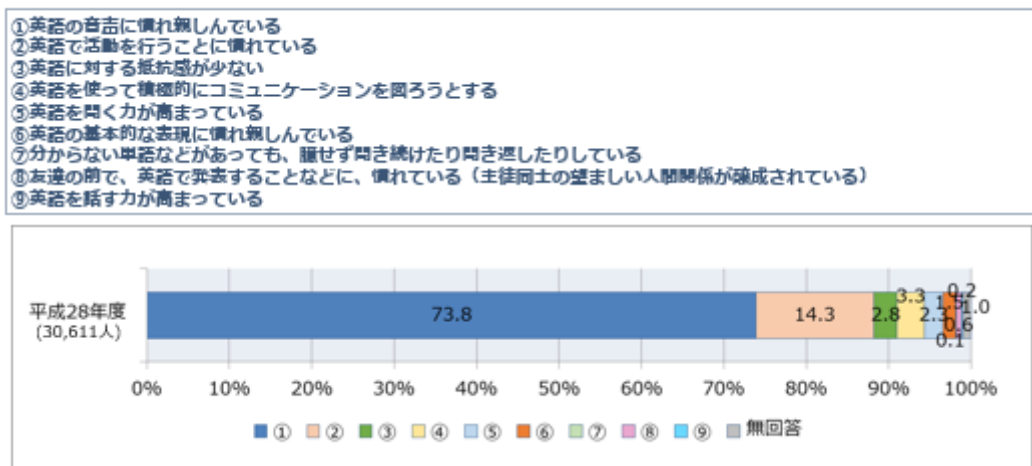
※「聞くこと」のテスト結果とのクロス

◆教員◆

○「外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について具体的にどのような成果や変容がみられましたか。」

- ・外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について、「英語の音声に慣れ親しんでいる」（選択肢①）と回答した教員は、73.8%。

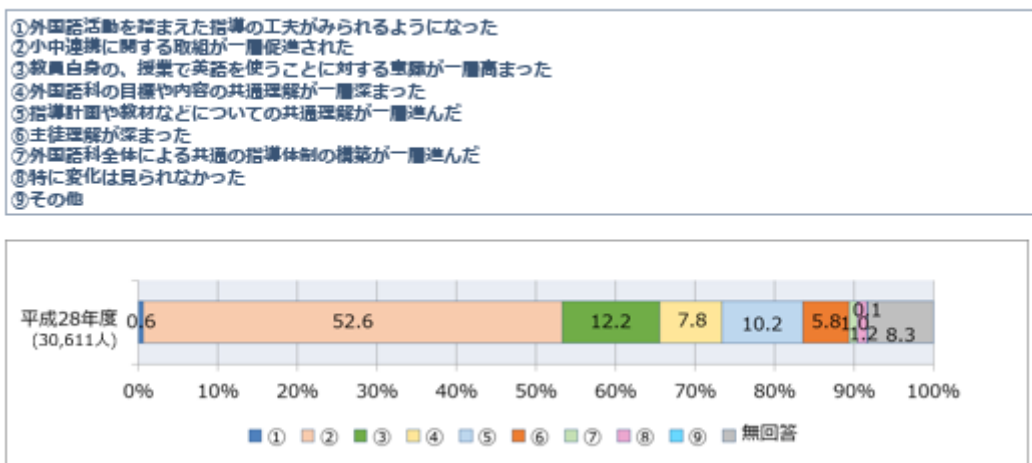
問 外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について、具体的にどのような成果や変容がみられましたか。



○「小学校で外国語活動が行われたことで貴校の外国語担当教員に変化は見られましたか。」

- ・小学校で外国語活動が行われたことで、「小中連携に関する取組が一層促進された」（選択肢②）と回答した教員は、52.6%。次いで「教員自身の、授業で英語を使うことに対する意識が一層高まった」（選択肢③）と回答した教員は、12.2%。

問 小学校で外国語活動が行われたことで貴校の外国語担当教員に変化は見られましたか。



4. まとめ

今回は、公立学校での調査データを中心に分析を行った。この分析を通して、平成 27 年度調査の結果と同様に、公立の中学校の多くの生徒が英語学習に対して好意的なイメージを持っていないことがわかった。今年度はその原因についての質問項目を追加したが、英語の学習が好きではない理由は、回答数が多い順に「英語そのものが嫌い」(33.7%)、「英語のテストで思うような点が取れない」(16.3%)、「文法が難しい」(13.8%)であった。この結果より、文法を明示的に教えるのではない指導方法についても更なる工夫が必要であると考えられる。

さらに、多くの中学生は、実際に英語を使用する各種体験を中学生活の中で経験できておらず、英語学習の目的として「高校入試」を重視している点についても大きな変化は見られなかった。一方で、質問紙調査の結果より、半数以上の生徒は何らかの形で実際に英語を使用したいと考えていることが明らかになった。本調査は中学校 3 年生を対象とした調査であるが、英語の使用に対する前向きな気持ちを高校入学後も維持できるような工夫が求められる。

生徒の英語学習を支える学校・教員は、授業外での国際交流・コミュニケーション能力育成のための取組や、授業内での技能統合を意識した言語活動の展開などにおいて、更なる工夫が必要ではあるが、授業内での技能統合を意識した言語活動の展開などにおいて若干ながら改善の傾向が見られた。

変化が見られた事柄として、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定している学校は、前年度の 33.4%から 45.7%と増加が見られた。今後それを教員と生徒の共通の目標とした上で、指導と評価が一体的に行われるように工夫することも有効であろう。また、英語の学習を「好き」にさせる指導や評価を行っていくことが重要である。そうすることが、生徒が英語力について将来の言語使用につながる目標を持ち、授業以外でも積極的に英語に接する生徒の育成につながる事が期待される。また、「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標を技能別に設定することにとどまらず、その目標を達成するためにどのような指導が必要なのかを考えて指導計画を立案することが最も重要である。

また、今年度より、小学校外国語活動に関する質問項目が新たに加えられた。肯定的な回答は半数を超え、「話すこと」「聞くこと」の CEFR レベルとのクロス集計を確認すると、「話すこと」「聞くこと」の力が高いほど、肯定的な回答をする割合が高かった。また、「聞くこと」において A2 レベルの生徒の約 40%が、小学校入学前から英語の学習を開始していた点は特徴的であった。「小学校の英語の授業で学んだこと」のなかで、中学校の英語の授

業で役に立ったことはありますか」という問いに対して、「アルファベットを読むこと」が20.8%、「英語で簡単な会話をすること」が19.6%、「外国のことについて学ぶこと」が13.5%と、順に回答数が多かった。この回答結果には、実際に中学校で求められている活動内容が反映されていることも一因として推察される。中学校でのプレゼンテーション活動がより活発に行われるようになることで、「英語で自分のことや意見を言うこと」と回答する生徒が増加するといったことも期待できる。

